

Cente Technical Information

発行番号	001-0055	Rev	第1版	発行日	2016/04/22
題名	TCPソケットのBIND動作において、他ソケットの状態を変えてしまうことがある現象について				
情報分類	障害情報				
適用製品	<ul style="list-style-type: none">・Cente TCP/IPv4 Ver.1.20 - Ver.1.35・Cente TCP/IPv4 SNMPv2 Ver2.00 - Ver2.22・Cente TCP/IPv4 SNMPv3 Ver2.00 - Ver2.22・Cente IPv6 Ver1.20 - Ver1.45・Cente IPv6 SNMPv2 Ver2.00 - Ver2.22・Cente IPv6 SNMPv3 Ver2.00 - Ver2.22				
関連資料	なし				
<p>【該当するユーザ環境】 BIND動作を実行するBSDソケットAPI(ctbind)を使用し、エラーを返すパラメータを渡す可能性のあるユーザ</p> <p>【障害内容】 以下の手順で発生します。 1) ソケットAにおいて、あるポート番号Xを指定してctbind()を呼び出し。 → 成功します。 2) ソケットBにおいて、同じポート番号Xを指定してctbind()を呼び出し。 → Xは既にソケットAにバインドされているため、エラー(EADDRINUSE)を返しません。 3) ソケットBをctclose()でクローズ。 4) ソケットCにおいて、同じポート番号Xを指定してctbind()を呼び出し。 → Xが既にソケットAにバインドされている状態は変わらないため、上記2)と同様エラーを返すべきですが、成功してしまいます。この結果、XはソケットCとバインドされている状態となり、ソケットAではX宛のパケットが受信できません。</p> <p>【発生理由】 上記2)において、一時的にソケット内部にセットしたポート番号情報を、エラー終了する前にクリアしていませんでした。そのため、上記3)を実行した際にそのポートを使用しているものとして、誤って未使用に戻していませんでした。</p> <p>【回避方法】 ctbind()の呼び出し時に、ポート番号が重複しないよう運用で回避してください。運用で回避できない場合は、ソースコードの修正が必要です。上記2)でエラー終了する前に、ソケット内部にセットしたポート番号情報をクリアします。 (修正箇所については、営業担当またはsupport@cente.jpまでお問い合わせください。)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					